



鹿児島国際大学でフィールドワーク等を経験した学生が成長する様子や地域連携事業を紹介します！

# IUK 産学官地域連携ニューズレター vol.2

2020年12月1日発行

## 2020年度 垂水市寄附講座

### 「自分の生き方について考える」

垂水市寄附講座は、2017年に垂水市と本学が締結した「地方創生の取組に関する協定」に基づき始まりました。今年度は「自分の生き方について考える」をテーマに3回の講義と垂水市におけるフィールドワークを行いました。



#### 【フィールドワーク】

6月27日に「道の駅たるみず」と「道の駅たるみずはまびら」で、フィールドワークを実施しました。17名の学生が参加し、現地視察や経営学科の西宏樹准教授をコーディネーターにグループワークを行い、コロナ禍における2つの道の駅の集客策、オンラインショッピングのメリットやデメリットについて考察・発表を行いました。



#### 【受講生の声】

道の駅の魅力や集客策を考えた。意見をまとめて発表するプレゼンに課題が残ったが、地域のマーケティングについて興味がわいてきた。



松岡 龍喜 経営学科2年 鹿屋高校出身

#### 「クリーニングを通して社会貢献」 和田 将史氏（有限会社 海潟ドライ 専務取締役） 5月29日実施



クリーニング師であるとともに垂水市商工会青年部に所属。地域を活性化したいと海潟温泉再生会を立ち上げ、火山灰を活用したイベントの開催や商品開発に携わったことを紹介し、「地元には何もないと嘆くより、柔軟な発想で地域にあるもので活性化に貢献しよう」と話しました。

#### 【受講生の声】

地域に貢献することを常に考えていられることが印象的だった。地域に何もないと嘆くのではなく、住民の方々が幸せに暮らすために、何をどのようにアピールしていくかを真剣に考える姿勢に学ぶことが多かった。



田畑 絢音 社会福祉学科1年 与論高校出身

#### 「銀行員から農家へ そして六次産業家へ」 濱田 直史氏（浜直農園 代表） 6月12日実施

銀行員時代に得た知識を基に、起業の夢を叶え農家へ転身。伝統製法で仕上げた「つらさげ芋」を生産から加工、販売まで行う六次産業の取り組みを紹介し、「変化の激しい時代。人の縁を大切に自分の能力を最大限活かせる環境を見つけてほしい」と学生にエールを送りました。



#### 【受講生の声】

安定した生活を送るために公務員や大手企業で働きたいと思っていたが、やりがいを感じられるのか不安になった。学生時代に自己分析をするなどし、今回の講義で興味を持った農業分野での地域活性化について学んでみたい。



佐伯 好香 経営学科1年 宮崎南高校出身

#### 「変化する勇氣」と「ゴーイングコンサーン」 草間 茂行氏（エスオーシー株式会社 代表取締役社長） 新型コロナウイルスの影響により、オンラインで実施

垂水の温泉水の販売が軌道に乗り、法人税を納めるタイミングで東京にあった本社を垂水市に移したキャリアの経緯などに触れ、「日本の中小企業にも成長性や持続性を期待できる会社がある。変化にすばやく対応でき、柔軟性のあるグローバルニッチ企業を選んでほしい」と話しました。



#### 【受講生の声】

企業が成長するには、時代の変化に合わせて積極的に変わっていくことが大切だと思った。今持っているイメージだけで就職先を選ぶのではなく、企業の継続性など多くの情報を収集し、自分自身も成長できるような学生生活を充実させたい。



竹宮 成美 国際文化学科1年 加世田高校出身